

自己評価結果表【共通評価】（保育所版）

共通評価（45項目）

I 福祉サービスの基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。	自己 評価 結果
【1】 I-1-(1)-① 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
判断基準 a	法人（保育所）の理念、基本方針が適切に明文化されており、職員、保護者等への周知が図られている。
b	法人（保育所）の理念、基本方針が明文化されているが、内容や周知が十分ではない。
c	法人（保育所）の理念、基本方針の明文化や職員への周知がされていない。
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、保育所内の文書や広報媒体（パンフレット、ホームページ等）に記載されている。
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、保育所が実施する保育の内容や特性を踏まえた法人、保育所の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、保護者等への周知が図られている。
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針を保護者会等で資料をもとに説明している。
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載	
<p>◆理念・基本方針等をパンフレットやホームページに掲載。また、令和3年度、認可45周年の節目として作成した記念冊子にて詳しく説明。在園児家庭に記念冊子を配布したところ、園の方針や子どもの様子がよくわかるとの言葉を複数いただいた。</p> <p>◆法人理念に関しては、神奈川県支部ホームページ上で確認できるよう、当園ホームページにおいてリンク先を掲載。</p> <p>◆わかくさ懇談会や面談を通して、園長が基本方針に基づいた保育・運営について説明している。</p> <p>◆クラス懇談会では、園の基本方針をもとに具体的な保育・クラス運営について説明している。</p> <p>◆全体職員会議、正規会議等において保育理念、方針、目標に触れながら話し合いを行っている。</p>	

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		自己 評価結 果
【2】 I-2-(1)-① 事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。		b
判断基準 a	事業経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	
b	事業経営をとりまく環境と経営状況が把握されているが、分析が十分ではない。	
c	事業経営をとりまく環境と経営状況が把握されていない。	
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・利用者（子ども・保護者）像等、保育のニーズ、潜在的利用者に関するデータを収集するなど、法人（保育所）が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 定期的に保育のコスト分析や保育所利用者の推移、利用率等の分析を行っている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆厚生労働省をはじめ神奈川県福祉子どもみらい局、横浜市保育教育運営課、横浜市保育園園長会、横浜市社会福祉協議会保育福祉部会、横浜市金沢区私立保育園園長会、横浜市金沢区公私合同園長会、金沢区社会福祉協議会等からの情報を常に把握し保育運営に活用している。</p> <p>◆独立行政法人福祉医療機構ワムネットの情報を分析指標の参考にしている。◆保育業界全般の情報把握については、複数企業のサポートを受けている。</p>		

【3】	I-2-(1)-② 経営課題を明確にし、具体的な取り組みを進めている。	b
判断基準 a	経営環境と経営状況の把握・分析にもとづき経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	
b	経営環境と経営状況の把握・分析にもとづき、取組を進めているが十分ではない。	
c	経営環境と経営状況の把握・分析にもとづく取組が行われていない。	
	□経営環境や保育の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	□経営状況や改善すべき課題について、役員（理事・監事等）間での共有がなされている。	○
	□経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	□経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆園長は運営環境をはじめ当園の様々な課題や問題点について、運営会議を通して全職員に発信している。◆法人の監事監査および監事会議が年1回行われ、施設の経営状況等が共有されている。◆近年、人材確保が困難であることから 年度初めに養成校へ求人票の公開を依頼。また実習やボランティアを通して、当園の保育を体験した学生に 就職の働きかけを行っている。</p> <p>◆次世代の人材育成を推進するために、今後OJTの充実強化を図っていきたい。</p> <p>◆保育園の経営状況について 現場職員が理解を少しずつ理解を深められるよう研修等を計画している。</p>		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。		自己 評価 結果
【4】	I-3-(1)-① 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。	b
判断基準 a	経営や保育に関する、中・長期の事業計画及び中・長期の収支計画を策定している。	
b	経営や保育に関する、中・長期の事業計画または中・長期の収支計画のどちらかを策定していなく、十分ではない。	
c	経営や保育に関する、中・長期の事業計画も中・長期の収支計画のどちらも策定していない。	
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標（ビジョン）を明確にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆法人及び施設としての中長期計画を策定している。※現在、済生会（法人）として平成30年4月から令和6年3月までの中期事業計画（6年間）が継続中。定期的に進捗状況の確認が行われている。◆具体的な内容については、施設としての中長期計画を策定。◆同法人同敷地内にある若草病院が当園の運営と密接な関係にあり、特に土地・建物をめぐる課題については病院の状況等を含めながら今後の方針を見極めていきたい考えである。</p>		

【5】 I-3-(1)-② 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。		b
判断基準 a	単年度の計画は、中・長期計画を反映して具体的に策定されている。	
b	単年度の計画は、中・長期計画を反映しているが、内容が十分ではない。	
c	単年度の計画は、中・長期計画を反映しておらず、内容も十分ではない。	
	<input type="checkbox"/> 単年度の計画には、中・長期計画の内容を反映した単年度における事業内容が具体的に示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、実行可能な具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。	○
	<input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆単年度の施設整備計画については、前年度中に支部を中継し本部にて法人全体の計画が取りまとめられている。尚、それらの計画については、施設の課題解決のための実行可能な内容である</p> <p>◆年間行事については、全職員で振り返りを行い、次年度に向けて各々意見を出したものを整理する。さらに計画案として保護者にも意向等を確認した上で、最終的に運営チームが決定する流れを作っている。</p> <p>◆事業計画、施設整備計画などについては、全職員からの提案を募り、少しでも職員が計画プロセスにかかわれるように努めている。</p>		

(2) 事業計画が適切に策定されている。

【6】	I-3-(2)-① 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	b
判断基準 a	事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。	
b	事業計画が職員等の参画のもとで策定されているが、実施状況の把握や評価・見直し、または、職員の理解が十分ではない。	
c	事業計画が、職員等の参画のもとで策定されていない。	
□事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。		○
□計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。		○
□事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。		○
□評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。		○
□事業計画が、職員に周知（会議や研修会における説明等）されており、理解を促すための取組を行っている。		○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

◆事業計画については、各セクション代表者から構成されている運営チームのメンバーによる検討を経て、決定されている。◆年間行事については、全職員で振り返りを実施し意見を出す。最終的には、運営チームで決定。◆事業・行事の立案や状況確認については、全職員ができるだけかかわれるよう改善を試みている。◆事業計画の理解が少しずつ深められるよう、職員会議等の機会を利用して周知を図っている。

【7】	I-3-(2)-② 事業計画は、保護者等に周知され、理解を促している。	b
判断基準 a	事業計画を保護者等に周知するとともに、内容の理解を促すための取組を行っている。	
b	事業計画を保護者等に周知しているが、内容の理解を促すための取組が十分ではない。	
c	事業計画を保護者等に周知していない。	
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、保護者等に周知（配布、掲示、説明等）されている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を保護者会等で説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事業計画については、保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆事業計画については、書類を玄関に設置。保護者がいつでも閲覧できるようにしている。また神奈川県済生会のホームページにより、支部全体の施設に関する計画も閲覧できる。</p> <p>◆わかき懇談会（全体懇談会）において 事業計画を伝え、意見などを募る。今後、ウェブを活用した懇談会にできるだけ多くの家庭が参加し、園運営に関心を持てるよう工夫していきたい。</p> <p>◆保護者にわかりやすい説明資料の工夫と改善を継続している。</p> <p>◆創立45周年記念冊子において、保育運営についての理解が少しでも深められるよう 写真と文字の組み合わせによる説明を試みた。</p>		

4 福祉サービスの質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。		自己 評価 結果
【8】 I-4-(1)-① 保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。		b
判断基準 a	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。	
b	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われているが、十分に機能していない。	
c	保育の質の向上に向けた取組が組織的に行われていない。	
	<input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく保育の質の向上に関する取組を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 保育の内容について組織的に評価（C: Check）を行う体制が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。	○
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、組織として位置づけられ実行されている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆毎月・クラス会議において保育内容のPDCAサイクルを確認し、記録を残している・全体の自己評価については、昨年度まで横浜市の評価基準様式を活用して実施。</p> <p>◆コロナ禍においてもZOOM会議を活用し、多くの職員が参加できるようにして、情報共有や共通理解を図るように努めている。</p> <p>◆全体的な課題については、各セクション代表の運営チームによる運営会議で検討する仕組みが成立している。（運営チーム⇄クラス責任者⇄クラス・セクション担当職員の流れで保育・運営に関するすべて事柄を共有できるような体制を整えている。）</p>		

I-4-(1)-②		b
【9】	評価結果にもとづき保育所として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。	
判断基準 a	評価結果を分析し、明確になった保育所として取り組むべき課題について、改善策や改善実施計画を立て実施している。	
b	評価結果を分析し、保育所として取り組むべき課題を明確にしているが、改善策や改善実施計画を立て実施するまでには至っていない。	
c	評価結果を分析し、保育所として取り組むべき課題を明確にしていない。	
	<input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆保育運営に関する様々な事柄は運営会議を通して発信される。その内容について迅速な共有化を図るため、当園ではパソコン内に議事録を作成しており、全職員が必ず確認することをルール化。この仕組みは、共有化の効果的な手段として定着し、クラスやセクションからの報告、意見等についてもこの議事録を活用している。また、職員周知がスムーズに図られることをはじめ、ボトムアップにも役立っている。◆付箋等を活用した記述方式により、職員の意見・提案を広く集める方法を選択する場合もあり、複数の手法を使ってコミュニケーションの滞りを減らすよう努めている。◆月末のクラス会議では、クラス全体、個別の振り返りを行い、次の計画、確認、行動へ繋げている。</p>		

Ⅱ 組織の運営管理

1 管理者の責任とリーダーシップ

(1) 管理者の責任が明確にされている。		自己 評価結 果
【10】	Ⅱ-1-(1)-① 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。	b
判断基準 a	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、理解されるよう積極的に取り組んでいる。	
b	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにし、理解されるよう取り組んでいるが、十分ではない。	
c	施設長は、自らの役割と責任を職員に対して明らかにしていない。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの保育所の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、保育所内の広報誌等に掲載し表明している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事（災害、事故等）における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
◆園長責務については、文書を掲示し保護者などが閲覧できる。◆事業継続計画（BCP）において、不在時の権限委任を明確化している。		

【11】 II-1-(1)-② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。		b
判断基準 a	施設長は、遵守すべき法令等を正しく理解するために積極的な取組を行っている。	
b	施設長は、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っているが、十分ではない。	
c	施設長は、遵守すべき法令等を正しく理解するための取組は行っていない。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者（取引事業者、行政関係者等）との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆法人の法令遵守規定をもとに コンプライアンス推進のお知らせを取引事業者に配布し、済生会の取り組みへの理解・協力を得られるよう努めている。</p> <p>◆法人主催のコンプライアンス研修や省エネ推進会議等に定期的に参加し、理解を深めていくことを継続している。</p> <p>◆SDGsを保育運営の羅針盤にすることを表明し、省エネの推進に取り組んでいる。</p> <p>◆職員会議における説明や保育所運営に関する書物類の回覧等を通して、少しずつ理解が深まるよう努めている。</p>		

(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。

【12】	Ⅱ-1-(2)-① 保育の質の向上に意欲をもち、その取組に指導力を発揮している。	b
判断基準 a	施設長は、保育の質の向上に意欲をもち、組織としての取組に十分な指導力を発揮している。	
b	施設長は、保育の質の向上に意欲をもち、組織としての取組に指導力を発揮しているが、十分ではない。	
c	施設長は、保育の質の向上に関する組織の取組について指導力を発揮していない。	
	<input type="checkbox"/> 施設長は、保育の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、保育の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、保育の質の向上について組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、保育の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、保育の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

- ◆保育・運営の中核となる運営チームメンバーには、週1回の運営会議に留まらず、広く深く様々な事柄にふれて話をする機会を持つようにしている。
- ◆日々の保育の困りごとや相談事には、できるだけ丁寧に寄り添いながら個別に助言したり、一緒に考えていくようにしている。
- ◆園長面談を全職員対象に実施。一人一人からの意見を聞く機会を持つようにしている。
- ◆クラスの個人面談報告を受け、必要に応じてアドバイスをしている。
- ◆職員とは日常的なコミュニケーションを図りながら意見を聞いたり、状況把握に努めている。
- ◆全職員が職種の枠を超えて福祉職員としてのスキルアップを目指している。(令和3年度は、コロナ禍でオンライン研修を実施)

【13】	I-1-(2)-② 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	b
判断基準 a	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高める取組に十分な指導力を発揮している。	
b	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮しているが、十分ではない。	
c	施設長は、経営の改善や業務の実効性を高める取組について指導力を発揮していない。	
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	□施設長は、組織の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、組織内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
	□施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために組織内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆財務等について、できるだけわかりやすく 日常的に活用できる分析表を作成し、その使用を開始した。</p> <p>◆職員配置については、適切な役割分担をすることにより、組織の理念・基本方針の具現化が果たせるように配慮している。</p> <p>◆子どもの安全と健康を守り、保育の質を向上させるために、職員の健康維持と働きやすい環境作りに努めている。（環境整備・休暇取得、研修参加、人間関係等）</p> <p>◆業務の実効性向上を図るために、運営チームを結成。 園長・主任・副主任・栄養士などがメンバーとしてチーム力を高めながら運営の中核を担う。チーム運営の実現により、仲間を尊重し合い柔軟で機動力のある組織に成長していくことと、次世代の人材が育成されることも期待している。</p> <p>◆コンピューターやネットワーク等のICTを活用した日常業務の効率化や情報公開、行事の開催等を行い、その使用技術を磨きながら業務の実行性を高める努力をしている。</p>		

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。		自己 評価 結果
【14】	Ⅱ-2-(1)-① 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。	b
判断基準 a	保育所が目標とする保育の質を確保するため、必要な福祉人材や人員体制に関する具体的な計画が確立しており、それにもとづいた取組が実施されている。	
b	保育所が目標とする保育の質を確保するため、必要な福祉人材や人員体制に関する具体的な計画が確立しているが、それにもとづいた取組が十分ではない。	
c	保育所が目標とする保育の質を確保するため、必要な福祉人材や人員体制に関する具体的な計画が確立していない。	
	<input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。	○
	<input type="checkbox"/> 保育の提供に関わる専門職の配置、活用等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。	○
	<input type="checkbox"/> 計画にもとづいた人材の確保や育成が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 法人(保育所)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆横浜市配置基準を満たすために必要な人員を常に確保・配置し、さらに余裕ある対応を実現するために短時間パート職員の活用などを積極的に進めている。</p> <p>◆キャリアアップ研修の受講をはじめ当園独自の研修計画に基づいた人材育成を継続している。</p> <p>◆新卒者確保のため、養成校と学生の現状理解に努めながら、連携していくことに努めている。</p>		

【15】	Ⅱ-2-(1)-② 総合的な人事管理が行われている。	b
判断基準 a	総合的な人事管理を実施している。	
b	総合的な人事管理に関する取組が十分ではない。	
c	総合的な人事管理を実施していない。	
	□法人(保育所)の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にしている。	○
	□人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。	
	□一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。	○
	□職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。	○
	□把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。	○
	□職員が、自ら将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みづくりができている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆ 済生会（法人）組織人として期待する職員像をはじめ、当園として定める経験年数に応じたステージごとの姿を明確にしておき、浸透化をさらにすすめていきたい。</p> <p>◆ キャリアパスおよびキャリア開発プログラムの浸透と活用をさらに進めていきたい。</p> <p>◆ 園長面談で意見・意向を聞き、その結果の共有と改善に努めている。</p>		

(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。

【16】	Ⅱ-2-(2)-① 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。	b
判断基準 a	職員の就業状況や意向を定期的に把握し、必要があれば改善する仕組みが構築され、働きやすい職場づくりに積極的に取り組んでいる。	
b	職員の就業状況や意向を定期的に把握する仕組みはあるが、改善する仕組みの構築が十分ではない。	
c	職員の就業状況や意向を把握する仕組みがない。	
	□職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。	
	□職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。	○
	□職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。	○
	□定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の悩み相談窓口を組織内に設置するなど、職員が相談しやすいような組織内の工夫をしている。	○
	□職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。	○
	□ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。	○
	□改善策については、福祉人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。	○
	□福祉人材の確保、定着の観点から、組織の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

◆法人規程においてセクシャルハラスメントならびにパワーハラスメント防止、またストレスチェック制度について各々定めがあり、この規程のもとに取り組みを実施している。◆同法人の若草病院とは、園児の内科検診において医師を派遣する契約関係にあり、必要に応じて職員の健康相談や受診も可能である。業務中の体調不良やけが、その他専門医による診察が必要な場合には、迅速に対応することにより職員の健康維持に努めている。◆突発的な休暇希望にも応えられるよう人員配置にゆとりを持たせ、さらに職員の理解協力を得られるように努めている。◆時間外勤務をせずに就労できるよう、業務の効率化を進めている。

◆園長面談を実施。その他、職員とのコミュニケーションを図るよう努めている。

◆コーチング資格取得者（職員）と運営チームによる職員バックアップ体制を構築。

◆職員の意向により、マッサージやピラティス等を取り入れ、職員の心身の健康維持・向上のために実施した。（現在コロナ禍のため中断）

◆育休後の短時間労働・ローテーション免除を現在実施中。介護や子育てなど職員の家庭における役

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

【17】	Ⅱ-2-(3)-① 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	b
判断基準 a	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理等が、適切に行われている。	
b	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理等が行われているが、十分ではない。	
c	職員一人ひとりの育成に向けた目標管理等が行われていない。	
	<input type="checkbox"/> 組織として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等保育所の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標が設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりの目標設定は、目標項目、目標水準、目標期限が明確にされた適切なものとなっている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

◆組織として期待する職員像をキャリア開発プログラムにおいて明確にしている。◆目標管理シート、個人研修(OJT)計画・評価シートを活用し、職員一人ひとりが目標を持って仕事に向き合うようにしている。

【18】	Ⅱ-2-(3)-② 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
判断基準 a	保育所として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	
b	保育所として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定されているが、内容や教育・研修の実施が十分ではない。	
c	保育所として職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定されていない。	
	<input type="checkbox"/> 保育所が目指す保育を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している保育の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、保育所が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆『わかくさ保育園研修要領』を研修の基本方針としている。</p> <p>◆全職員対象のオンライン研修を実施。職員が自身のペースで受講しやすいタイミングを見計らった手で受講することができる。時間はかかるが確実に職員の知識習得率をあげることができることにより、ウェブ研修の次年度継続を計画中。</p> <p>◆個人研修（OJT）計画・評価シートを用いて、研修目標を掲げ、実施後に評価を行っている。</p>		

【19】	Ⅱ-2-(3)-③ 職員一人ひとりの教育・研修の機会が確保されている。	b
判断基準 a	職員一人ひとりについて、教育・研修の機会が確保され、適切に教育・研修が実施されている。	
b	職員一人ひとりについて、教育・研修の機会が確保されているが、参加等が十分でない。	
c	職員一人ひとりについて、研修機会が確保されていない。	
	□個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	□新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	□階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	□外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	□職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆国が定める『保育士等キャリアアップ研修ガイドライン』に基づいて、条件を満たす対象職員のキャリアアップ研修の受講を進めている。</p> <p>◆オンライン研修を全職員対象で実施。</p> <p>◆午睡時間等を利用し、人権など園内研修を実施。職員間で協力しながらスキルアップと情報共有に努めている。</p> <p>◆新人研修として、ヒューマンスキルアップ等の園内研修を企画し、新人以外の職員も参加して共に学び合う試みを実施。</p> <p>◆人間性と専門性の向上を目指し、保育の枠を超えた幅広い分野の園内研修を実施してきた。</p> <p>◆全職員がいつでも希望する研修に申し込むことができるよう、研修参加募集のプリントなどを閲覧できるように設置している。</p>		

(4) 実習生等の福祉サービスに関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。

【20】	Ⅱ-2-(4)-① 実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
判断基準 a	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、効果的なプログラムを用意する等、積極的な取組を実施している。	
b	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備してはいるが、効果的な育成プログラムが用意されていないなど、積極的な取組には至っていない。	
c	実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成について体制を整備しておらず、教育・研修が行われていない。	
	□実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	□実習生等の保育に関わる専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	□専門職種の特徴に配慮したプログラムを用意している。	○
	□指導者に対する研修を実施している。	○
	□実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

- ◆実習生受け入れについてのマニュアルを作成。
- ◆指導者に対する研修については、受講済み。
- ◆オンライン研修には実習生指導の単元があり、現在全職員が受講中である。今後、指導力に厚みが増えることを期待している。
- ◆養成校の要望等を聞き、できるかぎり寄り添えるよう職員の協力を得ている。
- ◆養成校職員との電話でのやりとりの他、園訪問時には養成校の現状等、意見交換をしている。
- ◆現場の指導担当者は、計画・実践に対して丁寧に助言し、実習生の確かな学びに繋がるよう努めている。

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		自己 評価結 果
【21】	Ⅱ-3-(1)-① 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
判断基準 a	保育所の事業や財務等に関する情報について、適切に公開している。	
b	保育所の事業や財務等に関する情報を公表しているが、方法や内容が十分ではない。	
c	保育所の事業や財務等に関する情報を公表していない。	
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、保育所の理念や基本方針、保育の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 保育所における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公表している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、(保育所)の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人(保育所)の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、事業所で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆事業計画、報告、財務に関わることは、済生会（本部・支部）のホームページに掲載されている。</p> <p>◆日々の保育内容はじめ行事等については、ホームページ上に写真や文章で公開。平日には毎日更新することを基本にしている。</p> <p>◆コロナ禍が続き 地域とのかかわりが薄れる中、年末に開催したクリスマス会では、保育運営にかかわる数々の写真や文書を掲示し、ようやく地域関係者に公開することができた。</p> <p>◆第三者評価受診結果や苦情解決規程等については、ホームページに掲載し保護者が閲覧できるようにしている。</p> <p>◆第三者評価受審結果については、在園児家庭をはじめ関係者に冊子を配布した。</p>		

【22】	Ⅱ-3-(1)-② 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
判断基準 a	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	
b	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われているが、十分ではない。	
c	公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われていない。	
	□保育所における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	□保育所における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	□保育所の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	□外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆通常の監査はじめ往査による会計全般の確認作業を行っている。</p> <p>◆済生会による内部監査を受け、事業および会計業務についての確認が行われている。</p>		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。		自己 評価結 果
【23】	Ⅱ-4-(1)-① 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。	a
判断基準 a	子どもと地域との交流を広げるための地域への働きかけを積極的に行っている。	
b	子どもと地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っているが、十分ではない。	
c	子どもと地域との交流を広げるための地域への働きかけを行っていない。	
	<input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。	○
	<input type="checkbox"/> 活用できる社会資源や地域の情報を収集し、掲示板の利用等で保護者に提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 保育所や子どもへの理解を得るために、地域の人々と子どもとの交流の機会を定期的に設けるなどの取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の子ども・保護者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<ul style="list-style-type: none"> ◆45周年記念冊子に地域とのかかわりについて記載あり。 ◆玄関等の掲示板を利用し、地域の情報を公開している。 ◆土曜日を含める保育時間を利用し、地域行事への参加をはじめ様々な交流機会にふれあいを深めた。(現在、コロナ禍で中断) ◆海の公園等での地域行事(防災訓練等)に参加してきた。 ◆散歩中には、挨拶をかわしたりささやかな会話で地域住民とのふれあいを持つようにしている。 ◆第三者委員をはじめ、地域の民生委員との交流をしたこともある。 ◆行事へのお誘い ◆柔軟な発想により、様々なスタイルでの地域交流を今後も試行していきたいと考えている。 ◆保護者にはポスター掲示、冊子の設置等により、社会資源の情報提供を実施している。 <ul style="list-style-type: none"> ・園長が近隣宅への挨拶で交流を深めている。 ・キッズリターン(卒園児等対象)で在園児以外の子どもの育ちに関わっている。 		

【24】	Ⅱ-4-(1)-② ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。	b
判断基準 a	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢が明示されており、受入れについての体制が整備されている。	
b	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢が明示されているが、受入れについての体制が十分に整備されていない。	
c	ボランティア等の受入れに対する基本姿勢が明示されていない。	
	□ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。	○
	□地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化している。	○
	□ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。	○
	□ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。	○
	□学校教育への協力を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<ul style="list-style-type: none"> ◆ ボランティア受け入れマニュアルを作成。 ◆ オリエンテーションを実施し、実りあるボランティアになるよう交流ポイント等を事前に伝えている。 ◆ 学校の職業体験の受け入れを実施。 		

(2) 関係機関との連携が確保されている。

【25】	Ⅱ-4-(2)-① 保育所として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。	b
判断基準 a	子どもによりよい保育を提供するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に把握し、その関係機関等との連携が適切に行われている。	
b	子どもによりよい保育を提供するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に把握しているが、その関係機関等との連携が十分ではない。	
c	子どもによりよい保育を提供するために必要となる、関係機関・団体の機能や連絡方法を体系的に明示していない。	
	□当該地域の関係機関・団体について、個々の子ども・保護者の状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。	○
	□職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。	○
	□関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。	○
	□地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。	○
	□地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子ども・保護者のアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。	○
	□家庭での虐待等権利侵害が疑われる子どもへの対応について、要保護児童対策地域協議会への参画、児童相談所など関係機関との連携が図られている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

- ◆関係機関連絡帳を作成し、リスト化されたものを保管しながら状況に応じた対応に使用している。
- ◆横浜市こども青少年局保育教育運営課、横浜市私立保育園園長会、横浜市社会福祉協議会、金沢区保育園園長会、横浜市金沢区社会福祉協議会などと相互に関係しながら地域の関係機関・団体と情報共有を行う機会がある。
- ◆福祉保健センターとは、日頃から入所関係をはじめ様々な相談、研修講師の派遣などについてこまめに連絡を取り合い、園として心強い存在である。からのメール・電話等で地域の情報収集、情報共有をしている（災害についての情報提供等）それらを受け、迅速な対応ができる。
- ◆要保護児童対象児童は現在いないが、福祉保健センターの虐待担当者との関係性を保っている。（園内研修の講師として招く等）

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

【26】	Ⅱ-4-(3)-① 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
判断基準 a	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を積極的に行っている。	
b	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を行っているが、十分ではない。	
c	地域の具体的な福祉ニーズ・生活課題等を把握するための取組を行っていない。	
	□ 保育所(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種 会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握 に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

- ◆ 済生会では、ソーシャルインクルージョン推進計画を策定し、誰も取り残さなまちづくりを全国で推進している。金沢区の済生会施設では、若草病院を中心として済生会横浜金沢医療福祉センターを発足し、当園も所属している。現在は、環境美化の一環として地域清掃に職員と子どもたちが参加。行事や日常の中で様々なふれあいの機会を大切にしながら地域住民の一人ひとりが安心して自分らしい暮らしが安心して営めるために施設げ連携してできることを模索中。・保育園と地域住民とのつながりは、日頃の散歩時にかわす挨拶をはじめささやかな会話などを通して少しずつ育まれ、互いに親しみを持てる関係性になってきた。直接住民宅を訪問して、挨拶がてら困りごとや要望などがなく、さりげなくヒアリングをすることがある。今後も地域ニーズの把握と解決に向けた取り組みを継続していきたい。
- ◆ コロナ禍で地域とのつながりが希薄化していることによる危機感を持っている。今後は、感染症と共存しながら自然災害をはじめとする社会事象と向き合い、前進していくために地域との新たなカタチの繋がりを模索し共に歩んでいける関係性の再構築が重要課題である。

【27】 II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b	
判断基準 a	把握した地域の具体的な福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動を積極的に行っている。	
b	把握した地域の具体的な福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が十分ではない。	
c	把握した地域の具体的な福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動を行っていない。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 保育所(法人)が有する福祉サービスの提供に関するノウハウや、専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
<p>◆現在、コロナ禍により人とのつながりが薄れてしまったが、今後は・おひさまの庭（園庭解放）、行事や子育て支援講座へのお誘い。</p> <p>◆地域の防災訓練に参加したり、地域を含めた防災研修を実施。</p> <p>◆防災備蓄品などについては、十分備えている。災害時には、地域住民も避難できるよう環境を整えている。</p> <p>◆区内の郵便局（8局）と共働して、地域コミュニティの活性化を図っている。</p> <p>◆済生会のホームページを通して、専門的な情報を提供している。</p>		

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

1 利用者本位の福祉サービス

(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。		自己 評価結 果
【28】	Ⅲ-1-(1)-① 子どもを尊重した保育について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
判断基準 a	子どもを尊重した保育についての基本姿勢が明示され、組織内で共通の理解をもつための取組が行われている。	
b	子どもを尊重した保育についての基本姿勢は明示されているが、組織内で共通の理解をもつための取組は行っていない。	
c	子どもを尊重した保育についての基本姿勢が明示されていない。	
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した保育の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した保育の提供に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した保育に関する基本姿勢が、個々の保育の標準的な実施方法等に反映されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、組織で勉強会・研修を実施している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが互いを尊重する心を育てるための具体的な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 性差への先入観による固定的な対応をしないように配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの人権、文化の違い、互いに尊重する心について、その方針等を保護者に示すとともに、保護者も理解を図る取組を行っている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆すべての職員が全国保育士会倫理綱領に基づき、子ども一人ひとりの人格を尊重した保育やかかわりを実践している。◆一人ひとりの子どもの生活習慣や思いなどに寄り添いながら、子ども同士が互いを尊重し合えるようなかかわりが持てるように保育している。</p> <p>◆乳児であっても散歩と園庭遊びのどちらにするかを自分で選べたり、食事にするかももう少し遊ぶかを自分で決められるよう、優しく声掛けをして意思を確認している</p> <p>◆幼児には子どもの様子を見ながら「あなたはどうしたいの？」などと尋ね自分の気持ちを言葉で伝えられるようにしたり、言葉にはならない心の声を察したりすることを大切にしている。</p> <p>◆子どもの尊重について共通理解を図るために、会議や研修等を通して学びを深めている。</p> <p>◆研修を受講したり、参加しなかった研修は回覧で目通しをしたりできる。</p> <p>◆人権チェック表を元に各職員が振り返りを行っている。</p> <p>◆クリスマス行事では、世帯や来園者へ人権についての冊子を配布し、理解の広がりに努めた。また、会場には神奈川県や横浜市作成のポスターを掲示するなどささやかながら啓発を試みた。</p>		

【29】	Ⅲ-1-(1)-② 子どものプライバシー保護に配慮した保育が行われている。	a
判断基準 a	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備し、子どものプライバシーに配慮した保育が行われている。	
b	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備しているが、子どものプライバシーに配慮した保育が十分ではない。	
c	子どものプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備していない。	
	□子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	□規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した福祉サービスが実施されている。	○
	□一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守るよう設備等の工夫を行っている。	○
	□子ども・保護者にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆子どもや保護者が他人に見られたり知られたりしたくないことについて その意思が尊重されるよう徹底した対応を行っている。（会話や着替えの場面において注意深く対応するなど）・情報の共有については、どこまでの範囲にするかを内容や状況に応じて判断し実行している。</p> <p>◆幼児の着替え時にはカーテンを使用して、人目に触れることを遮るようにしている。</p> <p>◆シャワーを使用する際には、順番やメンバーの組み合わせについて配慮している。（男女別など）</p> <p>◆下着の履き替えについては、トイレの個室で行い、人目につかないようにしている。</p> <p>◆保護者との面談は、落ち着いた場所（個室）で行っている。</p> <p>◆オンライン研修の受講や書面確認を通して、全職員がプライバシー保護についての理解を深めることに努めている。</p>		

【30】	Ⅲ-1-(2)-① 利用希望者に対して保育所選択に必要な情報を積極的に提供している。	a
判断基準 a	利用希望者が保育所を選択するために必要な情報を積極的に提供している。	
b	利用希望者が保育所を選択するために必要な情報を提供しているが、十分ではない。	
c	利用希望者が保育所を選択するために必要な情報を提供していない。	
	□理念や基本方針、保育の内容や保育所の特性等を紹介した資料を、公共施設等の多くの人が入手できる場所に置いている。	○
	□保育所を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	□保育所の利用希望者については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	□見学等の希望に対応している。	○
	□利用希望者に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆金沢区が主催する地域のイベント開催時には、園のパンフレットを提供し 多くの子育て関係者が手にふれられるようにしている。◆区内の保育関連冊子や子育て家庭に有用な情報については、保護者が日々利用する玄関に 情報紙を設置。ポスター掲示も実施している。</p> <p>◆ホームページにおいて園の情報公開し、平日には毎日更新。※都合により未更新の場合もある。</p> <p>◆園見学希望者には丁寧に対応することを心がけ、保育園の利用に安心感が持てるよう質問にもできるだけ具体的に回答している。</p>		

【31】	Ⅲ-1-(2)-② 保育の開始・変更にあたり保護者等にわかりやすく説明している。	a
判断基準 a	保育の開始・変更時の同意を得るにあたり、組織が定める様式にもとづき保護者等にわかりやすく説明を行っている。	
b	保育の開始・変更時の同意を得るにあたり、組織が定める様式にもとづき保護者等に説明を行っているが、十分ではない。	
c	保育の開始・変更時の同意を得るにあたり、組織が定める様式にもとづき保護者等に説明を行っていない。	
	□保育の開始及び保育内容の変更時の説明と同意にあたっては、保護者等の意向に配慮している。	○
	□保育の開始・変更時には、保護者等がわかりやすいように工夫した資料を用いて説明している。	○
	□説明にあたっては、保護者等が理解しやすいような工夫や配慮を行っている。	○
	□保育の開始・変更時には、保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	□特に配慮が必要な保護者への説明についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆保育の開始時には、重要事項説明書を配布・説明し、後日同意書の提出を受けている。◆入園時、年度初めと後半には各クラスにおいて懇談会を実施。進級クラスの保育内容や変更点などについて、事前の説明をしたり質問に回答したりする。◆個人面談では、必要に応じて個別の支援や変更について保護者と確認を行う◆延長サービスの開始・変更にあたっては、費用等について事前の説明を行っている。</p> <p>◆保育等の説明の際には、プロジェクターを使用し、映し出した写真や文章に口頭説明を加えるなど保護者のわかりやすさにつながるような取り組みを実施している。</p>		

【32】	Ⅲ-1-(2)-③ 保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。	b
判断基準 a	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮している。	
b	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮しているが、十分ではない。	
c	保育所等の変更にあたり保育の継続性に配慮していない。	
	□保育所等の変更にあたり、保育の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	□保育所の利用が終了した後も、保育所として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	□保育所の利用が終了した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆変更（転園）にあたり、保育の継続性に配慮した手順と引き継ぎ文書を定めた。◆退園（転園）をした後も園メールにて行事開催についての情報提供を継続し、つながりを保つことで保護者が足を運びやすいようにしている。また卒園・退園（転園）児によるボランティア（キッズリターン）の機会を提供し、子ども自身が保育を手伝ったり旧友と遊んだりすることで園とつながり、困った時などには頼れる場所のひとつとして選べるようにしている。</p> <p>◆主任が相談窓口となり、対応している。（掲示でお知らせ）</p>		

(3) 利用者満足の上昇に努めている。

【33】	Ⅲ-1-(3)-① 利用者満足の上昇を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	b
判断基準 a	利用者満足を把握する仕組みを整備し、利用者満足の結果を踏まえて、その向上に向けた取組を行っている。	
b	利用者満足を把握する仕組みを整備し、利用者満足の結果を把握しているが、その向上に向けた取組が十分ではない。	
c	利用者満足を把握するための仕組みが整備されていない。	
	□日々の保育のなかで、子どもの満足度を把握するように努めている。	○
	□保護者に対し、利用者満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	□保護者への個別の相談面接や聴取、保護者懇談会が、利用者満足度を把握する目的で定期的に行われている。	○
	□職員等が、利用者満足度を把握する目的で、保護者会等に出席している。	○
	□利用者満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、検討会議の設置等が行われている。	○
	□分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

- ◆笑顔で園生活を送れているか、家庭で「ほいくえん楽しい」「○○が楽しみ」などの会話があるかなど、日頃の子どもの言動が、満足度を押し量るバロメーターである。
- ◆連絡帳記載を通して保護者の様子を把握し、必要に応じて面談の提案をするなど早急な対応を心がけている。
- ◆クラス懇談会、個人面談で保護者のニーズを把握している。
- ◆園長面談の実施前には、保護者の満足度調査を実施した。また、面談時には丁寧に聞き取りを行い、不安材料が少なくなるような説明に努めている。
- ◆子どもには「どっちにする?」「あなたはと思う?」などのやりとりを大事にしている。
- ◆保護者会と園長が連携し、課題の共有や意見交換を行っている。
- ◆保護者会役員会に園長が参加し運営等についての説明や課題の相談等を行うことがある。現在コロナ禍により停滞中。
- ◆第三者委員とは、日常的にコミュニケーションをとり、相談等をしている。
- ◆保育参加を勧めることにより、相互理解に繋がるよう努めている。

(4) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。

【34】	Ⅲ-1-(4)-① 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	b
判断基準 a	苦情解決の仕組みが確立され保護者等に周知する取組が行われているとともに、苦情解決の仕組みが機能している。	
b	苦情解決の仕組みが確立され保護者等に周知する取組が行われているが、十分に機能していない。	
c	苦情解決の仕組みが確立していない。	
	□苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	□苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を保護者等に配布し説明している。	○
	□苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	□苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	□苦情内容に関する検討内容や対応策については、保護者等に必ずフィードバックしている。	○
	□苦情内容及び解決結果等は、苦情を申し出た保護者等に配慮したうえで、公表している。	○
	□苦情相談内容にもとづき、保育の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

- ◆苦情解決のシステムの仕組みを玄関に掲示して保護者に知らせている。
- ◆わかき懇談会(全体懇談会)において、苦情内容やその対応策等を説明している。◆連絡帳の記載、口頭での申し出れ、福祉センターへの問い合わせ等、保護者の声を受け取る方法が複数用意されている。
- ◆保護者の苦情・要望等については、できる限り真摯に向き合い、寄り添うようにしている。
- ◆保護者会が用意したアンケート箱に要望などの記載書を投函することもでき、保護者利用を勧めている。
- ◆苦情等に対しては、早急に運営会議を開き職員共有を実施。対応策を検討をし、よりよい改善に繋げている。
- ◆コロナ禍の行事開催にあたっては、全世帯にヒアリングし保護者の意向を確認した上で方針を決定した。

【35】	Ⅲ-1-(4)-② 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備し、保護者等に周知している。	a
判断基準 a	保護者が相談したり意見を述べたい時に方法や相手を選択できる環境が整備され、そのことを保護者に伝えるための取組が行われている。	
b	保護者が相談したり意見を述べたい時に方法や相手を選択できる環境が整備されているが、そのことを保護者に伝えるための取組が十分ではない。	
c	保護者が相談したり意見を述べたい時に、方法や相手を選択できない。	
	□保護者が相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	□保護者等々に、その文章の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	□相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆クラス責任者が日常的な相談窓口となり、必要に応じて主任や園長が対応。問題解決に向けて家庭と園で共に進んでいく姿勢と感謝を伝えている。◆2階個室などを利用し、静かな場所で落ち着いて話ができるよう配慮している。</p> <p>◆送迎時には、挨拶や短時間の会話を大切にしながら保護者との信頼関係を築いている。</p> <p>◆保護者が相談したり意見を述べたい時に方法や相手を選択できる環境があることを個人面談などで伝え、記録に残している。</p> <p>◆面談の際には、担任だけでなく主任などが同席するなど、複数職員による対応が望ましい場合には保護者の同意を得て実施している。</p>		

【36】	Ⅲ-1-(4)-③ 保護者からの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	b
判断基準 a	保護者からの相談や意見を積極的に把握し、組織的かつ迅速に対応している。	
b	保護者からの相談や意見を把握しているが、対応が十分ではない。	
c	保護者からの相談や意見の把握をしていない。	
	□職員は、日々の保育の提供において、保護者が相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	□意見箱の設置、アンケートの実施等、保護者の意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	□相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	□職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	□意見等にもとづき、保育の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	□対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆苦情解決の仕組みを構築し、保護者の意見・要望などには、丁寧に対応するよう努めている。</p> <p>◆送迎時における口頭での申し入れや連絡帳による記述の内容によっては、迅速な対応が必要な場合があり、できるだけ時間をおかない配慮をしている。（迎えまで待たず、電話を入れて確認したり、面談の提案をしたりする）</p> <p>◆連絡帳の記載内容によっては、報告・共有が必要なケースもあり、日頃から注意深くコメントを感じ取るようにしている。</p>		

(5) 安心・安全な福祉サービスの提供のための組織的な取組が行われている。

【37】	Ⅲ-1-(5)-① 安心・安全な福祉サービスの提供を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	b
判断基準 a	リスクマネジメント体制を構築し、子どもの安心と安全を脅かす事例の収集や要因分析と対応策の検討・実施が適切に行われている。	
b	リスクマネジメント体制を構築しているが、子どもの安心と安全を脅かす事例の収集や要因分析と対応策の検討・実施が十分ではない。	
c	リスクマネジメント体制が構築されておらず、子どもの安心と安全を脅かす事例を組織として収集していない。	
	□リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	□事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	□子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	□収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	□職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	□事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

◆事故防止規定について職員周知を図っている。◆業務中のヒヤリハット事例は、発生直後に各自議事録パソコンに入力し、全職員が共有できるようにしている。◆事故、怪我については、直ちに園長・主任に報告することを徹底している。また状況確認等の検証を迅速に行い、改善策を検討している。(事故の発生直後には、複数の関係職員や子どもへの聞き取りを行い、様々な視点で細かく検証し報告書を作成。全職員で共有し、再発防止策を講じる。)

◆リスクマネジメント責任者を主任として、運営チームで共有。全職員に周知。(口頭、議事録等)

◆安全点検(遊具、備品など)の実施(年2回)

◆新聞記事の回覧などを通して保育業界に関わることをはじめ様々な情報を収集し、職員の危機意識を高めていくことに努めている。

◆危機管理についての研修に参加し、学びを継続している。◆不審者の侵入対応においては、一刻も早く通報できるよう非常通報装置を設置。防犯訓練には神奈川県警にも協力を得ている。

【38】	Ⅲ-1-(5)-② 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。	b
判断基準 a	感染症の予防策が講じられ、発生時等の緊急時の子どもの安全確保について組織として体制を整備し、取組を行っている。	
b	感染症の予防策が講じられ、発生時等の緊急時の子どもの安全確保について組織として体制を整備しているが、取組が十分ではない。	
c	感染症の予防策が講じられていない。	
	□感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。	○
	□感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し、職員に周知徹底している。	○
	□担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。	○
	□感染症の予防策が適切に講じられている。	○
	□感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。	○
	□感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を定期的に見直している。	○
	□保護者への情報提供が適切になされている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆厚生労働省の『保育所における感染症対策ガイドライン』に準じて感染症対策を行っている。◆子どもの登園前には、門扉をはじめ複数の手が触れる場所の消毒を行うなど、感染予防の徹底に努めている。◆入室時の手洗いを励行。◆乳児はマスクをすることができないものの、職員の介助により手洗い、食前には手指消毒を行っている。◆玩具については、水洗いや消毒を高い頻度で実施している。◆感染症の情報提供については、玄関（タイムレコーダー付近）に掲示し、保護者に迅速に知らせる感染拡大を防いでいる。尚、この際には子どものプライバシーに配慮。</p> <p>◆嘔吐物処理方法については、感染症が流行する前にクラス会議などで確認している。</p> <p>◆園児家族が感染症に罹患している場合には、園内に入らずインターフォンを押してもらい門周辺で子どもの受け渡しを行う。◆午睡時の布団を敷く際には、間隔を空けたり、頭を互い違いにして咳等による飛沫感染を防止するよう努めている。</p> <p>◆マスクの着用（幼児）と取り替えを行い、マスクの始末にも配慮している。</p>		

【39】	Ⅲ-1-(5)-③ 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	a
判断基準 a	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。	
b	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を行っているが、十分ではない。	
c	地震、津波、豪雨、大雪等の災害に対して、子どもの安全確保のための取組を行っていない。	
	<input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。	○
	<input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、建物・設備類、保育を継続するために必要な対策を講じている。	○
	<input type="checkbox"/> 子ども、保護者及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 防災計画等を整備し、地元の行政をはじめ、消防署、警察、自治会、福祉関係団体等と連携するなど、体制をもって訓練を実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆発災後のBCP（事業継続計画）を作成。運用を開始している。◆毎月、防災訓練を実施。保護者の迎えには相当な時間がかかることが予想されるため、子どもと職員の宿泊を想定した準備を進めている。・関係機関、地域との連携を図りながら様々な訓練を実施してきたが、コロナ禍により中断されているつながりもあり、今後は連携の再構築を図る必要がある。◆必要物品を備蓄し、定期的に確認。防災食に関しては、ローリングストックを行い、給食素材として利用している。◆『命を守る保育』を意識した日頃の防災実践には、保護者から安心と共感の声が寄せられている。◆紙芝居や絵本を利用して災害についての知識が得られるようにしている。◆子どもが自分でできることを増やしていけるよう言葉で行動で伝えている。◆地域の散歩を通して日頃から顔の見える関係づくりを意識している。（警察、福祉保健センター、小学校、近所宅等）◆行事においては、常に災害の発生も想定し、事前に注意とお願いを呼びかけている。</p> <p>◆緊急地震速報知を設置し、大地震が起きる前に行動できるよう訓練している。</p> <p>◆保護者を巻き込んだ防災訓練実施。防災フェア（園内備品展示、防災食試食など）実施、年長児の</p>		

2 福祉サービスの質の確保

(1) 提供する福祉サービスの標準的な実施方法が確立している。		自己 評価結 果
【40】 Ⅲ-2-(1)-① 保育について標準的な実施方法が文書化され保育が提供されている。		b
判断基準 a	保育について、標準的な実施方法が文書化され、それにもとづいた保育が実施されている。	
b	保育について、標準的な実施方法が文書化されているが、それにもとづいた保育の実施が十分ではない。	
c	保育について、標準的な実施方法が文書化されていない。	
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重、プライバシーの保護や権利擁護に関わる姿勢が明示されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 標準的な実施方法により、保育実践が画一的なものとなっていない。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆子ども一人ひとりの発達や状況等を踏まえた標準的な実施方法を定めている。◆様々な経験値の保育士が子どもたちに関わる上でよりよい保育につながるよう文書化されている。◆日常の保育は、この実施方法の記載された文書に基づいて実施されている。◆標準的な実施方法については、保育運営マニュアルとしてファイルが出来上がっており、加筆・変更等が行われた際には職員が確認して実施することになっている。</p> <p>◆全職員が目通し、確認、改善をしている。</p>		

【41】 Ⅲ-2-(1)-② 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。		b
判断基準 a	標準的な実施方法について定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるように仕組みを定め、仕組みのもとに検証・見直しを行っている。	
b	標準的な実施方法について定期的に検証し、必要な見直しを組織的に実施できるように仕組みを定めているが、検証・見直しが十分ではない。	
c	標準的な実施方法について、組織的な検証・見直しの仕組みを定めず、定期的な検証をしていない。	
	<input type="checkbox"/> 保育の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が組織で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 保育の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、指導計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆標準的な実施方法の見直しについては、職員や保護者からの意見・提案にもとづき、子どもにとってより望ましい育ちにつながるかを判断基準にして行う。またその際には、職員の業務負担になりすぎないことにも配慮する。見直しについては、関係職員の意見を集め、最終的に運営会議やクラス会議等で決定。その後は広く職員周知を図り、確実に実施していく。</p> <p>◆PDCAサイクルを意識しながら保育・運営している。</p>		

考慮	
【42】	Ⅲ-2-(2)-① アセスメントにもとづく指導計画を適切に策定している。
判断基準	b
a	アセスメントにもとづく指導計画を策定するための体制が確立しており、取組を行っている。
b	アセスメントにもとづく指導計画を策定するための体制が確立しているが、取組が十分ではない。
c	アセスメントにもとづく指導計画を策定するための体制が確立していない。
	<input type="checkbox"/> 指導計画策定の責任者を設置している。 ○ <input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。 ○ <input type="checkbox"/> さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。 ○ <input type="checkbox"/> 全体的な計画にもとづき、指導計画が策定されている。 ○ <input type="checkbox"/> 子どもと保護者等の具体的なニーズ等が個別の指導計画等に明示されている。 ○ <input type="checkbox"/> 計画の策定にあたり、さまざまな職種の関係職員、必要に応じて保育所以外の関係者が参加して合議、保護者の意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。 ○ <input type="checkbox"/> 指導計画にもとづく保育実践について、振り返りや評価を行う仕組みが構築され、機能している。 ○ <input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な保育の提供が行われている。 ○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載	
<p>◆指導計画の策定においては、主任保育士を責任者とし、各年齢ごとに策定される指導計画を総括している。責任者は計画の実施から評価見直しについて必要な助言も行う。◆子どもの身体状況や子どもと保護者の生活状況等を把握するために、入園前には所定様式への記載と個人面談を実施。その際には保育ニーズについても確認を行う。◆入園後のアセスメント：日々の連絡帳や口頭でのやりとりを通して、個人面談、クラス会議、給食会議の実施・月案の振り返りが翌月の計画に反映されている。</p> <p>◆乳児の個別計画については、保護者に開示し保護者の意見なども聞き取りをしている。</p> <p>◆第三者委員には、全体懇談会等の参加を通して評価を依頼している。</p>	

【43】	Ⅲ-2-(2)-② 定期的に指導計画の評価・見直しを行っている。	b
判断基準 a	指導計画について、実施状況の評価と計画の見直しに関する手順を組織として定めて実施している。	
b	指導計画について、実施状況の評価と計画の見直しに関する手順を組織として定めて実施しているが、十分ではない。	
c	指導計画について、実施状況の評価と計画の見直しに関する手順を組織として定めて実施していない。	
	□指導計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、保護者の意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	□見直しによって変更した指導計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	□指導計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	□指導計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、子ども・保護者のニーズ等に対する保育・支援が十分ではない状況等、保育の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○
	□評価した結果を次の指導計画の作成に生かしている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆指導計画の見直しについては、月の振り返り等で実施しており、それをもとに次月の計画を行うことになっている。</p> <p>◆職員周知を行う際には、事務所内 所定の場所に回覧文書が設置されており、職員は必ず目通し、押印する仕組みがある。</p> <p>◆個人面談等で保護者の意向を確認している。</p> <p>◆様々な変更などについては、運営会議で共有し職員に周知している。</p>		

(3) 福祉サービス実施の記録が適切に行われている。

【44】	Ⅲ-2-(3)-① 子どもに関する保育の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
判断基準 a	子ども一人ひとりの保育の実施状況が適切に記録され、職員間で共有化されている。	
b	子ども一人ひとりの保育の実施状況が記録されているが、職員間での共有化が十分ではない。	
c	子ども一人ひとりの保育の実施状況が記録されていない。	
	□子どもの発達状況や生活状況等を、保育所が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	□個別の指導計画にもとづく保育が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	□記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	□保育所における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	□情報共有を目的とした会議の定期的な開催の取組がなされている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

- ◆児童票（ファイル）に綴じられている物すべて。
- ◆個別の疾患等を記録する用紙を日誌と共に綴じている。いつでも目を通すことができる。
- ◆定期的の会議だけでなく、日常的にやりとりしていることが今年度は特にできている。
- ◆日々の気になる子には、職種をこえて関わりのある職員にはすぐに口頭に伝え、対応を検討している。（食事、排泄面でもサポート）

【45】 Ⅲ-2-(3)-② 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
判断基準 a	子どもに関する記録の管理について規程が定められ、適切に管理が行われている。
b	子どもに関する記録の管理について規程が定められ管理が行われているが、十分ではない。
c	子どもに関する記録の管理について規程が定められていない。
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。 ○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。 ○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。 ○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。 ○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。 ○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、保護者等に説明している。 ○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載	
<p>◆ 利用者の記録に管理に関する規程が法人において定められている。（文書管理規程）</p> <p>◆ 個人情報の取扱い等に関する規程が法人において仇められている。</p> <p>◆ 全職員がオンライン研修において、個人情報の取扱い等についての学びを深め、意識の向上に努めている。</p>	

自己評価結果表【内容評価】（保育所版）

内容評価（20項目）

A-1 保育内容

A-1-(1) 全体的な計画の作成		自己 評価結 果
【A1】 A-1-(1)-① 保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じて全体的な計画を作成している。		b
判断基準 a	全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成している。	
b	全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成しているが、十分ではない。	
c	全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に応じ作成していない。	
	<input type="checkbox"/> 全体的な計画は、児童憲章、児童の権利に関する条約、児童福祉法、保育所保育指針などの趣旨をとらえて編成している。	○
	<input type="checkbox"/> 全体的な計画は、保育所の理念、保育の方針や目標に基づいて編成している。	○
	<input type="checkbox"/> 全体的な計画は、子どもの発達過程、子どもと家庭の状況や保育時間、地域の実態などを考慮して編成している。	○
	<input type="checkbox"/> 全体的な計画は、保育に関わる職員が参画して編成している。	○
	<input type="checkbox"/> 全体的な計画は、定期的に評価を行い、次の編成に生かしている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
◆全体的な計画においては、保育園の理念、保育の方針や目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や過程及び地域の実態に応じ、保育に関わる職員とその他の職員が参画して作成されている。◆全体的な計画が、当園の特性をいかした計画になるよう、全職員で創意工夫を試みている。◆職員は必ず目通しをして、クラス担当間で確認し合っている。		

A-1-(2) 環境を通して行う保育、養護と教育の一体的展開		自己評価結果
【A2】	A-1-(2)-① 生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	a
判断基準 a	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している。	
b	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備しているが、十分ではない。	
c	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備していない。	
	<input type="checkbox"/> 室内の温度、湿度、換気、採光、音などの環境は、常に適切な状態に保持している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保育所内外の設備・用具や寝具の衛生管理に努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家具や遊具の素材・配置等の工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもが、くつろいだり、落ち着ける場所がある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食事や睡眠のための心地よい生活空間が確保されている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 手洗い場・トイレは、明るく清潔で、子どもが利用しやすい設備を整え、安全への工夫がされている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆コロナ対策(3密を避ける)・消毒・温度・湿度などに配慮し心身の健康と情緒の安定が図られるよう保育環境を整えている。◆子どもが安心してくつろげる環境整備を行っている◆窓を開け、扇風機などを利用し空気の循環を良くしている。◆子どもの活動が豊かになるような家具の配置と災害対策のバランスをとりながら子どもにとって心地よい空間になるよう配慮に努めている。◆おもちゃの消毒を入念にしている。(特に乳児)◆おもちゃ棚は柔らかい天然の木材を使用したものを選んでいる。(高知から取り寄せた棚もある)◆子どもが清潔で安全な環境のもと、安心して生活を送ることができるような保育環境を作るよう努めている。◆職員も環境のひとつとして自分磨きに力を注いでいる。</p>		

【A3】 A-1-(2)-② 一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。		a
判断基準 a	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っている。	
b	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っているが、十分ではない。	
c	一人ひとりの子どもを受容し、子どもの状態に応じた保育を行っていない。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達と発達過程、家庭環境等から生じる一人ひとりの子どもの個人差を十分に把握し、尊重している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが安心して自分の気持ちを表現できるように配慮し、対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 自分を表現する力が十分でない子どもの気持ちをくみとろうとしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの欲求を受けとめ、子どもの気持ちにそって適切に対応している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに分かりやすい言葉づかいで、おだやかに話している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> せかす言葉や制止させる言葉を不必要に用いないようにしている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆一人ひとりの子どもの理解に努め、子どもたちをありのまま受けとめ包み込むような援助を心がけている。◆子どもが安心して心を開ける保育士の存在を認め、皆でカバーしながら保育士と子どもの関係性を大切にしている。◆子ども時間を尊重し、できるだけ子どもの願いを叶えてあげられるような工夫と協力を心がけている◆全職員が子ども一人ひとりの状況を把握することができるように、担当は子どもの情報をパソコン上議事録に入力。すべての子どもの共通理解を深めるよう努めている。(勤務前にはすべての職員が確認するようにしている)◆アピールをする子に目が行きがちであるが、大人しい子にも心を配る◆人見知りをする子等に配慮して保育している。◆子どもの内面に寄り添い、子どもが自分自身であるために必要な配慮と関わりを心がけている。</p>		

【A4】	A-1-(2)-③ 子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	a
判断基準 a	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っている。	
b	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っているが、十分ではない。	
c	子どもが基本的な生活習慣を身につけることができる環境の整備、援助を行っていない。	
	□一人ひとりの子どもの発達に合わせて、生活に必要な基本的な生活習慣を身につけられるよう配慮している。	○
	□基本的な生活習慣の習得にあたっては、子どもが自分でやろうとする気持ちを尊重して援助を行っている。	○
	□基本的な生活習慣の習得にあたっては、強制することなく、一人ひとりの子どもの主体性を尊重している。	○
	□一人ひとりの子どもの状態に応じて、活動と休息のバランスが保たれるように工夫している。	○
	□基本的な生活習慣を身につけることの大切さについて、子どもが理解できるように働きかけている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆個人差を考慮し、一人ひとりの子どもにとって適切な時期に援助していくように努めている ◆子どもが生活習慣を身に付ける過程において、子どもが自分でやろうとする気持ちをいつも尊重し温かく見守るようにしている。◆生活習慣が身につけにくい子に対しては、保護者と共有しながら援助している。◆一人ひとりの姿が違うので、自分でやりたいのか手伝ってもらいたいのかを見極めて援助している。保育士だけでなく栄養士による手洗い指導等を実施。</p> <p>◆個別、集団の両面で指導を継続。「なぜ悲痛用なのか」を伝えるようにしている。◆子ども一人ひとりの状況把握が必要。(子どもをよく見る) ◆チーム間のコミュニケーションを豊かにし情報共有できるようにしている。◆生活習慣については、職員の関わり方が子どもの成長を育むことにつながるため、一人ひとりにとの丁寧な関わりを大切にしていきたい。</p>		

【A5】	A-1-(2)-④ 子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	a
判断基準 a	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。	
b	子どもが主体的に活動できる環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開しているが、十分ではない。	
c	子どもが主体的に活動できる環境の整備や、子どもの生活と遊びを豊かにする保育が展開されていない。	
	□子どもが自主的・自発的に生活と遊びができる環境を整備している。	○
	□子どもが自発性を発揮できるよう援助している。	○
	□遊びの中で、進んで身体を動かすことができるよう援助している。	○
	□戸外で遊ぶ時間や環境を確保している。	○
	□生活と遊びを通して、友だちなどと人間関係が育まれるよう援助している。	○
	□子どもたちが友だちと協同して活動できるよう援助している。	○
	□社会的ルールや態度を身につけていくよう配慮している。	○
	□身近な自然とふれあうことができるよう工夫している。	○
	□地域の人たちに接する機会、社会体験が得られる機会を設けている。	○
	□様々な表現活動が自由に体験できるよう工夫している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆様々な人間関係が築かれるよう日常的なふれあいを大切にしており、子どもたちは自分からすすんで大人に挨拶している。（地域の方との交流、朝のラジオ体操、病院リハビリ職員と患者さん、など）◆近くに海があり 緑あふれる環境が有難い。四季を通して自然に触れなが生活ができることは子どもの育ちに大変よい影響を与えらると思われ。さらに活動範囲を広げ、地域に溶け込みながら過ごしていきたい。</p> <p>◆地域の方との活動をもつことで社会体験ができています。戸外で遊ぶ時間が十分ある。◆年長児の当番活動。◆気候の良い時期には、7時半から18時半までの長時間を、園庭あそびしている。◆散歩へ出かける機会を持ち、歩くこと、自然の中でのあそびを大切にしている。◆自由の中にもルールがあることを伝えている。◆年齢が上がると共に、友だちと協力する体験の機会を持つようにしている。（共同制作やパラバルーン、ハンドベル等）</p>		

【A6】	A-1-(2)-⑤ 乳児保育(0歳児)において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
判断基準 a	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	
b	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
c	適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。	
	<input type="checkbox"/> 0歳児が、長時間過ごすことに適した生活と遊び及び環境への工夫がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 0歳児が、安心して、保育士等と愛着関係(情緒の安定)が持てるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの表情を大切にし、応答的な関わりをしている。	○
	<input type="checkbox"/> 0歳児が、興味と関心を持つことができる生活と遊びへの配慮がされている。	○
	<input type="checkbox"/> 0歳児の発達過程に応じて、必要な保育を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 0歳児の生活と遊びに配慮し、家庭との連携を密にしている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆保育所保育指針「健やかに伸び伸びと育つ」「身近な人と気持ちを通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」の3つの視点をもとに計画的に保育している。◆乳児の健康と安全を確保し、応答的に関わる特定の保育士との関わりにより愛着関係を形成している。◆探索活動や遊びにより主体性の基盤を養っている ◆1歳児と一緒に過ごす事が多いが、0歳児のみで過ごした方が落ち着くと思われる時はクラス単位活動にするなどの工夫をしている。</p> <p>◆少人数で過ごしたり、異年齢のかかわりで刺激を受けたりする機会も多く持っている。</p> <p>◆わらべうたを歌うことで子どもが興味を持てるようにしている。</p> <p>◆主に関わる担当保育士との関係作りを大切にしている。</p> <p>◆0・1歳児室の2部屋を使い分けし、自由に動き、遊べる空間を保てるようにしている。</p>		

【A7】 A-1-(2)-⑥ 1歳以上3歳未満児(1・2歳児)の保育において、養護と教育が一体的に展開されるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
判断基準 a	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。
b	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。
c	適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの状況に応じ、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。 ○
	<input type="checkbox"/> 探索活動が十分に行えるような環境を整備している。 ○
	<input type="checkbox"/> 子どもが安心して遊びを中心とした自発的な活動ができるよう、保育士等が関わっている。 ○
	<input type="checkbox"/> 子どもの自我の育ちを受け止め、保育士等が適切な関わりをしている。 ○
	<input type="checkbox"/> 保育士等が、友だちとの関わりの中立ちをしている。 ○
	<input type="checkbox"/> 様々な年齢の子どもや、保育士以外の大人との関わりを図っている。 ○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの状況に応じ、家庭と連携した取組や配慮がされている。 ○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載	
<p>◆保育所保育指針「健康・人間関係・環境・言葉・表現」の5領域の視点をもとに保育を計画的に行っている ◆一人ひとりの子どもの育ちに合わせた食事や衣類の着脱など基本的な生活習慣が身に付くようにしている。◆子どもの自我の育ちを支えられるよう、子どもが自分でしようとする気持ちを尊重している。◆周囲に環境や人・ものへの探索行動を存分にできるように、安全に配慮しながら環境を整備したり保育士等が関わったりしている。◆個別計画を立て、評価をしている。◆小さいながらも 近所の方への挨拶を積極的に行っている。</p> <p>◆言葉で伝えられない子どもの代弁・イヤイヤ期の対応を丁寧に行う。◆異年齢の交流が自然な形で生まれている。※全園児と一緒に遊べる広さの園庭がある。 ※幼児は乳児室に遊びに来てふれあいの時間を持っている。 ※2歳児は夕方、幼児と合同保育を実施。◆担当保育士以外の職員とかかわる時間がある。◆一人ひとりの子どもの状況や要望に寄り添いながら、優しく声をかけている。</p>	

【A8】	A-1-(2)-⑦ 3歳以上児の保育において、養護と教育が一体的に展開がされるよう適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a
判断基準 a	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	
b	適切な環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
c	適切な環境、保育の内容や方法に配慮されていない。	
	□3歳児の保育に関して、集団の中で安定しながら、遊びを中心とした興味関心のある活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	○
	□4歳児の保育に関して、集団の中で自分の力を発揮しながら、友だちとともに楽しみながら遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	○
	□5歳児の保育に関して、集団の中で一人ひとりの子どもの個性が活かされ、友だちと協力して一つのことをやり遂げるといった遊びや活動に取り組めるような環境を整え、保育士等が適切に関わっている。	○
	□子どもの育ちや取り組んできた協同的な活動等について、保護者や地域・就学先の小学校等に伝える工夫や配慮がされている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆年齢ごとの発達的特徴を踏まえ、一人ひとりの子どもの育ちに合わせて基本的な生活習慣が身に付くようにしている。◆友だちや他の人々との関わりが深まり、ものごとへの関心が高められるよう保育内容を工夫している。◆保育所保育指針の内容（健康・人間関係・環境・言葉・表現）を生活と遊びを通して総合的に身に付けられるよう計画を立て、実践している。◆集団の中で安定して過ごすことができるようになること、自己を十分に発揮し、友だちと協力してひとつのことをやり遂げたり協同的な活動ができるよう、保育環境を整え援助します。</p> <p>◆5歳児、コロナ対策で幼保小との連携が少ないので、イメージが湧くように小学校の様子を伝えたり、散歩で小学校の前を歩いて、学校の様子を見学するようにしている。◆室内玩具は、子どもが取りやすいようにして環境を整えている。</p> <p>◆3きょうだい活動を取り入れると、年上の子が年下の子の面倒を見ながら自覚が育ち、年下の子は優しく導いてくれる存在に安心感や憧れを抱くようになるなど、異年齢の育ち合いが生まれる。</p>		

A-1-(2)-⑧		a
【A9】 障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。		
判断基準 a	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	
b	障害のある子どもが安心して生活できる環境を整備し、保育内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
c	障害のある子どもが安心して生活できる環境の整備、保育の内容や方法に配慮していない。	
	<input type="checkbox"/> 建物・設備など、障害に応じた環境整備に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 障害のある子どもの状況に配慮した個別の指導計画を作成し、クラス等の指導計画と関連づけている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 計画に基づき、子どもの状況と成長に応じた保育を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども同士の関わりに配慮し、共に成長できるようにしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて、医療機関や専門機関から相談や助言を受けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員は、障害のある子どもの保育について研修等により必要は知識や情報を得ている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保育所の保護者に、障害のある子どもの保育に関する適切な情報を伝えるための取組を行っている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆一人ひとりの子どもの発達過程を把握し、集団の中で子どもたちが共に育つことができるような計画を立てている。また保育環境を工夫しながら子どもたち一人ひとりが落ち着いて過ごせるような配慮を心がけている。◆園全体で一人ひとりの子どもを見守る体制を作っている。</p> <p>◆保護者の思いや意向にできるだけ寄り添い、不安などを取り除くことができるような対応を心がけている。（個人面談を希望、日々の様子を詳しく知りたい、など）</p> <p>◇職員は必要な知識や情報を得るために研修を受講したり、話し合いの機会を作るようにしている。</p> <p>◆個別の指導計画を作成し、子どもの発達状況や課題等について保護者と共有し、共通認識を持つよう努めている。◆専門機関等と連携しながら、子どもの生活や遊びを支援している。</p> <p>◆すべての子どもたちが安全にのびのびと過ごせるよう環境改善に継続して取り組んでいる。</p>		

【A10】 A-1-(2)-⑨ 長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	a	
判断基準 a	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮している。	
b	長時間にわたる保育のための環境を整備し、保育の内容や方法に配慮しているが、十分ではない。	
c	長時間にわたる保育のための保育環境の整備、保育の内容や方法に配慮していない。	
	<input type="checkbox"/> 1日の生活を見通して、その連続性に配慮し、子ども主体の計画性をもった取組となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭的でゆったりと過ごすことができる環境を整えている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況に応じて、おだやかに過ごせるよう配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 年齢の異なる子どもと一緒に過ごすことに配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 保育時間の長い子どもに配慮した食事・おやつ等の提供を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの状況について、保育士間の引継ぎを適切に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 担当の保育士と保護者との連携が十分にとれるように配慮している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆ 在園時間が長い幼児については、希望すれば園長室や乳児室に遊びに行き気分転換ができるなど、柔軟な対応を実施している。</p> <p>◆ 2階保育室や個室を利用して、子どものあそびに広がりや深み加わるような玩具等の使用や時間の使い方を工夫している。</p> <p>◆ 延長サービスの時間帯には疲れも出てくるので、特定の担当者が静かに絵本を読むなど個別にゆったりと関わるよう心がけている。</p> <p>◆ 緊急に延長保育が必要な子どもには、おやつを提供しながら安心して保護者の迎えを待てるよう優しく見守りながら保育している。</p>		

【A11】	A-1-(2)-⑩ 小学校との連携、就学を見通した計画に基づく、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	a
判断基準 a	小学校との連携、就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮している。	
b	小学校との連携、就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮しているが、十分ではない。	
c	小学校との連携や就学を見通した計画、保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮していない。	
	□計画の中に小学校との連携や就学に関連する事項が記載され、それに基づいた保育が行われている。	○
	□子どもが、小学校以降の生活について見通しを持てる機会が設けられている。	○
	□保護者が、小学校以降の子どもの生活について見通しを持てる機会が設けられている。	○
	□保育士等と小学校教員との意見交換、合同研修を行うなど、就学に向けた小学校との連携を図っている。	○
	□施設長の責任のもとに関係する職員が参画し、保育所児童保育要録を作成している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆就学を見通した指導計画（年間、月次）を作成し、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を目標にしながら保育を実施している。</p> <p>◆子どもたちが小学校に入学するにあたり、子どもの育ちの状況とともに、その子らしさが伝わるよう保育所児童保育要録に内容を整理して記録している。・保護者には懇談会やクラス便りを活用し、就学に関する個別の不安等が緩和できるよう配慮している。</p> <p>◆コロナ禍の昨年度、区内小学校校長を園に招き、子ども達との交流機会を作った。小学校に親しみと期待が持てるように、校長が子どもたちに楽し気に語りかけたり、一緒におやつを食べるなどして貴重なひと時を過ごした。</p>		

A-1-(3) 健康管理		自己評価結果
【A12】 A-1-(3)-① 子どもの健康管理を適切に行っている。		a
判断基準 a	子どもの健康管理を適切に行っている。	
b	子どもの健康管理を適切に行っているが、十分ではない。	
c	子どもの健康管理を適切に行っていない。	
	<input type="checkbox"/> 子どもの健康管理に関するマニュアルがあり、それに基づき一人ひとりの子どもの心身の健康状態を把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの体調悪化・けがなどについては、保護者に伝えるとともに、事後の確認をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの保健に関する計画を作成している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの健康状態に関する情報を、関係職員に周知・共有している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 既往症や予防接種の状況など、保護者から子どもの健康に関わる必要な情報が常に得られるように努めている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保護者に対し、保育所の子どもの健康に関する方針や取組を伝えている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 職員に乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する知識を周知し、必要な取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保護者に対し、乳幼児突然死症候群(SIDS)に関する必要な情報提供をしている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆厚労省『保育所における感染症対策ガイドライン2018年改訂版』に基づいて健康対策を実施。保健に関する計画を作成している。◆家庭には、保健所の乳幼児健康診査における結果を園に提出することの協力を依頼し、健康管理資料として役立てている。◆乳幼児の発育状況をカウプ指数で表し、太りすぎややせすぎを数字で確認するために、身体測定後には全員を計算対象にしている。必要に応じて個別の栄養指導などを実施。◆SIDSに関する情報については、家庭と共有するために行政からのプリント配布や当園作成の45周年記念冊子にも掲載し、日常的な注意を呼びかけている。また入園時の個別面談においても病気の内容や日常の留意点等について保護者と押さえをしている。◆コロナ禍における健康維持については、感染症対策の徹底とともに外で体を動かして遊ぶことや栄養面の充実を図り、免疫力を高めていくことを保護者にも周知している。◆健康増進のために外遊び時間（園庭・さんぽ）を多く持っている。◆裸足保育の推進。</p>		

【A13】 A-1-(3)-② 健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。		a
判断基準 a	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映している。	
b	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映しているが、十分ではない。	
c	健康診断・歯科健診の結果を保育に反映していない。	
	<input type="checkbox"/> 健康診断・歯科健診の結果が記録され、関係職員に周知されている。	○
	<input type="checkbox"/> 健康診断・歯科健診の結果を保健に関する計画等に反映させ、保育が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭での生活に活かされるよう保育に有効に反映されるよう、健康診断・歯科健診の結果を保護者に伝えている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆厚労省『保育所における感染症ガイドライン・健診（検診）による総評については、ホームページ上のおたよりでふれるようにしている。</p> <p>◆健診時には、保護者からの質問を医師に伝え、その回答や助言を保護者に報告している。</p> <p>◆歯科健診による結果を受けて 各家庭が歯科医を受診する割合が高く、歯科医師も驚いていた。子どもの歯の健康に対する意識の高さが伺える。園からの発信が保護者に届くことにより、子どもが自分の歯を大切にしようとする意識も高まっている。◆健診（検診）により一人ひとりの子どもの発育・発達状態や健康状態を知り、日々の健康管理に有効に活用している。（むし歯のある子への丁寧な歯磨き指導など）◆食後の歯磨きを励行。◆子どもが自身の健康に興味関心を持てるよう保育内容の工夫を行っている。◆あごが小さい子が増えているため、よく噛んで食べる必要のある食材を給食に取り入れていきたいと考えている。</p>		

改訂版

【A14】	A-1-(3)-③ アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け適切な対応を行っている。	a
判断基準 a	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っている。	
b	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、医師からの指示を受け、適切な対応を行っているが、十分ではない。	
c	アレルギー疾患、慢性疾患等のある子どもについて、適切な対応を行っていない。	
	□アレルギー疾患のある子どもに対して、「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」をもとに、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	○
	□慢性疾患等のある子どもに対して、医師の指示のもと、子どもの状況に応じた適切な対応を行っている。	○
	□保護者との連携を密にして、保育所での生活に配慮している。	○
	□食事の提供等において、他の子どもたちとの相違に配慮している。	○
	□職員は、アレルギー疾患、慢性疾患等について研修等により必要な知識・情報を得たり、技術を習得している。	○
	□他の子どもや保護者にアレルギー疾患、慢性疾患等についての理解を図るための取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載

◆厚労省が示す「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」の内容を理解し実践につなげるよう努めている。◆自然災害をはじめ緊急時の対応として、個別のコンテナにアレルギー児専用の食品を備蓄している。◆アレルギー疾患についての理解につながるよう、使用するトレーの色や石鹸が違うことを子どもに分かる言葉で伝えている。

◆保育参加の機会を利用して、アレルギー疾患のある子どもの対応等について保護者に 取り組み状況を伝えている。◆かかりつけ医を受診したり検査結果等が明らかになった際には、必ず保護者からの情報提供を受けるようにし、職員間で共有することを徹底している。◆卵除去の子がいる場合は、全園児が卵なしのマヨネーズを使用するなど誤食による事故防止に努めている。

◆行事の機会や園内掲示板を利用して、アレルギー対応についての文書を掲示することにより、保護者の理解につなげている。

A-1-(4) 食事		自己評価結果
【A15】	A-1-(4)-① 食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	a
判断基準 a	食事を楽しむことができるよう工夫をしている。	
b	食事を楽しむことができるよう工夫をしているが、十分ではない。	
c	食事を楽しむことができる工夫をしていない。	
	<input type="checkbox"/> 食に関する豊かな経験ができるよう、保育の計画に位置づけ取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれる環境・雰囲気づくりの工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達に合わせた食事の援助を適切に行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食器の材質や形などに配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 個人差や食欲に応じて、量を加減できるように工夫している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 食べたいもの、食べられるものが少しでも多くなるよう援助している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが、食について関心を深めるための取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの食生活や食育に関する取組について、家庭と連携している。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆0、1歳児では、子どもが主体的に食事するrことを大切に、「たべたい」という子には先に給食を提供し、もっとあそんでからがいいという子には、様子を見て少し遅めに声をかけている。すると小さいながらも自分で決めたことにはやる気がわいて、意欲的に食事する姿が見られる。</p> <p>◆苦手な物を食べるのが負担にならないよう、量を少なめにしたり、好きな物を見つけてそれを食べることから始め、だんだんと様々な食材に慣れていくようにしている。</p> <p>◆給食で使用する食材を調理前に 子どもたちに見せる食育の機会を作っている。</p> <p>◆コロナ禍における食事環境の変化は、子どもたちに少なからず影響を与えている。クラス会議、給食会議等では様々な意見・提案を出し合い、職員間で共通理解を図ることに努めている。</p> <p>◆栄養士による食育タイムや朝のおはなし（園長の放送）がきっかけとなり 食に興味を持つ子がいるなど、日常的な食育の取り組みが子どもたちの関心を高めている。</p>		

【A16】	A-1-(4)-② 子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	a
判断基準 a	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供している。	
b	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供しているが、十分ではない。	
c	子どもがおいしく安心して食べることのできる食事を提供していない。	
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもの発育状況や体調等を考慮した、献立・調理の工夫をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの食べる量や好き嫌いなどを把握している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 残食の調査記録や検食簿をまとめ、献立・調理の工夫に反映している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 季節感のある献立となるよう配慮している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 地域の食文化や行事食などを取り入れている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 調理員・栄養士等が、食事の様子を見たり、子どもたちの話を聞いたりする機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 衛生管理の体制を確立し、マニュアルにもとづき衛生管理が適切に行われている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆旬の食材を使用し、季節感を大切にしながら薄味に仕上げている。子どもたちの嗜好に配慮し、食べたいような献立と調理の工夫により、残食が少ない。◆一人ひとりの体調を考慮し、個別対応をしている。（例：便や口内の状態により、消化のよいやわらかい物や小さくカットしたものなど、内容や形状を変更して提供）◆マニュアルに基づいた衛生管理を徹底している。。</p> <p>◆幼児クラスでは、子どもが希望する提供量（おかわりや減量など）について 個別に対応している。</p> <p>◆栄養士が食事の配膳・様子を見る機会があり、子ども一人ひとりの喫食状況や食に関わるマナーなどについて保育士と一緒に考えている。</p>		

A-2 子育て支援

A-2-(1) 家庭と緊密な連携		自己 評価結 果
【A17】 A-2-(1)-① 子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。		a
判断基準 a	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っている。	
b	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っているが、十分ではない。	
c	子どもの生活を充実させるために、家庭との連携を行っていない。	
	<input type="checkbox"/> 連絡帳等により家庭との日常的な情報交換を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保育の意図や保育内容について、保護者の理解を得る機会を設けている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 様々な機会を活用して、保護者と子どもの成長を共有できるよう支援をしている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 家庭の状況、保護者との情報交換の内容を必要に応じて記録している。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆家庭と保育園の情報交換は、連絡帳や口頭でのやり取りによって行われている。◆送迎時には、保護者とのコミュニケーションを大切に、保護者と保育士に余裕があるタイミングであれば少し時間をかけて話をすることもある。◆クラス懇談会や個人面談、行事の開催などを通して保護者と相互理解を図るよう努めている。◆保護者の保育参加を実施。年間を通して希望の日時に参加することができ、保育士と一緒に保育を行う体験が好評である。</p> <p>◆園長面談では、保護者の意向や要望を伺うとともに 保育の意図などについて説明したりする機会としている。◆ホームページでは、日々の保育の様子や給食などを写真と文章で伝えている。（平日には毎日更新）</p>		

A-2-(2) 保護者等の支援		自己評価結果
【A18】	A-2-(2)-① 保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	a
判断基準 a	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っている。	
b	保護者が安心して子育てができるよう支援を行っているが、十分ではない。	
c	保護者が安心して子育てができるようにするための支援を行っていない。	
	<input type="checkbox"/> 日々のコミュニケーションにより、保護者との信頼関係を築くよう取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保護者等からの相談に応じる体制がある。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保護者の就労等の個々の事情に配慮して、相談に応じられるよう取組を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 保育所の特性を生かした保護者への支援を行っている。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談内容を適切に記録している。	<input type="radio"/>
	<input type="checkbox"/> 相談を受けた保育士等が適切に対応できるよう、助言が受けられる体制を整えている。	<input type="radio"/>
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆日頃、在園児をはじめ地域の子育て相談を受けた際には、連絡ノートや口頭でできるだけ丁寧に対応することを心がけている。◆個人面談を実施する際には、保護者の都合に合わせてるように調整している。また保護者ができるだけリラックスして保育士と向き合えるよう、話しやすい雰囲気作りを大切にしている（面談場所の配慮など）◆コロナ禍による保護者の不安感を解消するためにPCS（パーソナルケアサポート）を策定。必要な支援の個別対応をしている。</p> <p>◆個人面談の内容について 記録を残し、必要に応じて関係職員で共通理解を図るようにしている。</p> <p>◆電話対応時などには、保護者へのささやかな配慮を心がける（体調不良による欠席連絡を受けた際には、保護者の体調も尋ね大事にしてほしいことを伝えるなど）</p>		

【A19】	A-2-(2)-② 家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	b
判断基準 a	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めている。	
b	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めているが、十分ではない。	
c	家庭での虐待等権利侵害の疑いのある子どもの早期発見・早期対応及び虐待の予防に努めていない。	
	□虐待等権利侵害の兆候を見逃さないように、子どもの心身の状態、家庭での養育の状況について把握に努めている。	○
	□虐待等権利侵害の可能性があると職員が感じた場合は、速やかに保育所内で情報を共有し、対応を協議する体制がある。	○
	□虐待等権利侵害となる恐れがある場合には、予防的に保護者の精神面、生活面の援助をしている。	○
	□職員に対して、虐待等権利侵害が疑われる子どもの状態や行動などをはじめ、虐待等権利侵害に関する理解を促すための取組を行っている。	○
	□児童相談所等の関係機関との連携を図るための取組を行っている。	○
	□虐待等権利侵害を発見した場合の対応等についてマニュアルを整備している。	○
	□マニュアルにもとづく職員研修を実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆日頃から 虐待等権利侵害となる兆候を見逃さないよう すべての子に対して家庭での養育状況を把握しながら、親子の様子を注意深く見守るようにしている。 ◆虐待等権利侵害の早期発見・早期対応のためのマニュアルとこれに基づく組織的な取り組み（子どもの身体に傷やあざを発見した場合には、その理由を必ず確認。また保護者の様子がいつもと違う場合には、声かけをするなど虐待につながる可能性がありそうな様子に気づいた時には、早期の対応により未然に防ぐように努める。異常の発見についての報告とその後の経過については、園長・主任に報告。さらに職員共有へと広げていく。）状況により金沢区福祉保健センター担当係長に相談の連絡をすることになっている。・運営チームで共有した後は、各クラス等職員に発信する。</p> <p>◆金沢区福祉保健センターの虐待対応担当者による園内研修では、虐待権利侵害に関する基本的知識や現状を学び、園内研修での学びが保育に活かされている。 ◆広く理解を得られるようポスターを掲示したり、リーフレットは配布したりしている。 ◆子どもはもちろん、保護者の様子（表情・生活時間・化粧・身なり・言動・ノート記載等）にも目配りしながら 支援が必要な状況か、など見極め</p>		

A-3 保育の質の向上

A-3-(1) 保育実践の振り返り（保育士等の自己評価）		自己評価結果
【A20】	A-3-(1)-① 保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	a
判断基準 a	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めている。	
b	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)を行い、保育実践の改善や専門性の向上に努めているが、十分ではない。	
c	保育士等が主体的に保育実践の振り返り(自己評価)に取り組んでいない。	
	<input type="checkbox"/> 保育士等が、記録や職員間の話し合い等を通じて、主体的に自らの保育実践の振り返り(自己評価)を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 自己評価にあたっては、子どもの活動やその結果だけでなく、子どもの心の育ち、意欲や取り組む過程に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 保育士等の自己評価を、定期的に行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 保育士等の自己評価が、互いの学び合いや意識の向上につながっている。	○
	<input type="checkbox"/> 保育士等の自己評価にもとづき、保育の改善や専門性の向上に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 保育士等の自己評価を、保育所全体の保育実践の自己評価につなげている。	○
【判断した理由・特記事項等】 abc評価の根拠となる取り組みや実践を具体的に記載		
<p>◆保育士は、自らの保育実践と子どもの育ちを振り返り、次の保育に向けて改善を図るようにしている。また、保育士が、個別に振り返りを行った後、クラスとしての振り返りを持ち寄り、相互の話し合いの中で全体的な保育の振り返りを行うと同時に 学びを深めている。</p> <p>◆子どもの様子を職員間で早めに共有できるようにしている。月1回の会議を実施。◆個別・クラス全体のことを園全体で共有し、保育園全体の自己評価につなげている。</p>		

自己評価結果

a

b

c